

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域との交流は、段階的であるが実施している。理念として取り組みが未整理である
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	毎日申し送りの際、基本方針の唱和を行っている。また、日々、基本方針を意識した取り組み(家庭的で利用者のペースに合わせた希望に沿うなど)を実施している。 今後、地域密着型サービスとしての理念を整備し、その実施に向けて取り組んでいきたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	家族に対しては、契約時に運営方針については説明している。 今後、地域密着型サービスとしての理念が整備でき次第、家族や地域の人々に伝えていきたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		通通勤時の際、および利用者との散歩、買い物の際などに、挨拶や短い会話を日常的に行っている
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		幼稚園からの慰問の受け入れや、幼稚園および小学校の運動会、育成会の餅つき等への参加を年間行事の一環としている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	先のような取り組みは行っていない	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	金銭管理について、以前は家族に出納帳のみ確認してもらっていたが、前回の評価で要改善と指摘を受けたため、以後、領収書綴りを個別に作成し小遣いの補充の際、家族の確認して頂いている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員からの提案により、ホールでのテレビの付けっ放しをやめ、クラシックや有線放送、懐メロ等のBGMをかける時間を設けている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特別な用事がなければ行き来することはない	○	通信サルビアを配信している
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	先のような取り組みは行っていない	○	今後、左記の制度を必要とするケースがあれば、関係者と連携していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について現在まで学ぶ機会はない。利用者対応については、やさしさと思いやりという基本方針を職員一人一人が意識し、管理者も処遇会議に毎回出席し、意識付けを行ったり、毎日、現場を巡回するなど予防に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、解約時とも、管理者相談員で左記のように取り組んでいる。特に解約については、前もって家族に対して説明する機会を何度か作り退居後の不安がないように努めている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	余暇の過ごし方については、利用者の希望を聞き散歩や買い物など、できるだけ希望に添えるように心がけている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、健康状態等の報告に努めている、また、体調に異常が見られる場合には、電話で報告している。金銭管理については小遣い補充に訪れた際出納長、領収書を確認して頂いている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	先のような機会を特に設けていないが、意見等がある場合には、いつでも対応し、運営に反映させる体制をとっている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見については、処遇会議のほか、いつでも相談に乗っていただいている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者優先に考えている。そのため、の勤務調整は必要があれば実施している	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体としての異動であるが、グループホームにふさわしい人材の要望が考慮されている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症研修、グループホーム連絡協議会主催の研修等、職員が代わる代わる出席できるよう努めている。また、法人内研修(認知症、接遇、リスクマネジメント等)も年1回くらいの間隔で実施している</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ブロック研修会には、ほぼ毎回出席し、ブロック主催の年2回のレベルアップ研修(相互訪問)には、毎回参加し交流を努めている</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年1回の職員旅行や新年会、暑気払い等を実施している、産業医の月1回の巡回あり</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年末に法人全体として職員の意識調査を実施し意見要望を伝えることが出来る</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>左記の通りの対応を心かけている。また、利用開始より、観察を行い、その人の出来ること、出来ないことを見極め、ケアプランへとつなげている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>左記の通りの対応に勤め、家族の要望を十分聞く機会を作っている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		○	要望については、出来る限り応えて行きたいと思っている、過去に他のサービス利用の要望がなかった。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人家族に会ったり、施設見学に来ていただいている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのかかわりを日頃から重視し、その時々を考えていること、意向を見極めた上で、職員もそれに沿った対応を心がけている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の際には、本人の近況を報告し、今後の施設の方針を説明したり家族の意向を聞くなどしている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事の家族の参加(敬老会など)を呼びかけたり、お盆や年末年始の帰省への働きかけを行っている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や年末年始の帰省、ふるさと訪問等の実施		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人同士で、行動できるような機会を作っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約解除後、同法人内のショートステイや特養を利用していただく等、行き先に不安の無いように支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、コミュニケーションを十分図りながら、本人の意向を聞くように努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	左記の内容については、利用開始の際、家族から詳しく聞いている。また、利用開始後も、本人や家族から随時聞くこともある		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態については申し送りにより一人一人が確認している。有する力に応じた手伝いや活動が出来るように一日の過ごし方を支援している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回のケアプランについては、家族の意向について確認しているが、それ以降については、詳しく聞いていない。本人との話し合いは、ほとんど行わず、量棟の職員の意見によりケアプランを作成している	○	本人、家族の意向について聞く機会を増やして行きたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを実施。見直し以前の計画変更については、今まで、特に実施していなかった	○	利用者の変化により、ケアプランの変更が必要な場合には、新たなケアプランを作成していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別の日記に記入している。特記すべき事については、もらさず記入するように心掛けている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、外食、日帰り旅行(年2回)、地域の理美容店の利用等の支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の際、地域の演芸ボランティアや模擬店ボランティア(納涼祭)に協力して頂いている。又、防災訓練では、年2回消防に立ち会っていただいている(他に、茶道、絵手紙ボランティアなどもあり)		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームでの生活の継続が困難と思われる利用者については、同法人の特養に入所申し込みを行なった。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	先のような取り組みは行っていない	○	今後、左記の制度を必要とするケースがあれば、包括支援センターと協力していきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、特にかかりつけ医の希望が無ければ、協力医療機関である、みづほクリニックをかかりつけ医として頂いている。希望がある場合には、意向を尊重している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	今後、利用される方の中で、左記の様な必要性のある方がいれば取り組んでいきたい
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	終末期ケアを施設で行なうかどうかについては、まだ未定であり。今後の検討課題である
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	終末期ケアを施設で行なうかどうかについては、まだ未定であり。今後の検討課題である
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権尊重、プライバシーの尊重を基本方針としており言葉使いについては、敬語を基本としている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の意思表示を大切に希望について、できるだけ沿えるように支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで過ごせるように支援している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分の衣服の選択ができる方については、その方の意向を尊重している。整髪、自分で洗顔できない方については、おしぼり洗顔を実施している。地域の理美容店の利用が可能の方については、支援を行なっている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切りや皮むき等の準備、食後の食器の片付け等できる方には、手伝って頂いている。朝、夕食は夜勤者、昼食は当日勤務者全員と一緒に食事を食べている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食時にビールを毎日提供、就床時に梅酒を提供、本人の希望があったときに、一緒にスーパーに買い物に行ったり職員が購入してきていたりしている。例)おやつ、つまみ、缶ジュース、パン等	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄状況(失禁の有無、誘導の必要の有無など、昼夜の違い)に合わせて、オムツを選択したり誘導を行なうなどしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯とも決めて実施しているが、入浴の際は、ゆったり入浴していただけるよう支援している	○	夏の暑い時期など、今後希望があれば入浴日以外の日でも、シャワー浴等実施していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう、日中は利用者個々の出来る事を行なって頂くなど、適度に体を動かして頂けるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を生かした取り組みは十分ではないが、時々手打ちうどん、裁縫、手作りおやつを実施している。又、月1回絵手紙ボランティアの来所、演芸ボランティアの要請などを実施している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭の管理を行っている方は、いない		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	余暇時間には、できるだけ、近所に散歩に出かけられるように支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お盆や年末年始の帰省、ふるさと訪問(今まで何度か実施)、日帰り旅行の支援を行なっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けてほしいとの希望がある時には、自由に利用できるように支援している。ただし、精神状態が不安定で頻回な要求がある場合には、制限する場合もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は8:00~21:00の間可能である。面会時には、お茶を飲んでいただき、居室や談話室でゆっくり過ごせるよう配慮する		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為の十分な理解には至っていないが、身体拘束はしてはいけないという事を職員は正しく認識し、身体拘束のないケアを実施している	○	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について職員が十分理解できるように勤めていきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関は日中施錠はしていないが、グループホームは4階にあり、玄関から出るとすぐ階段があり危険であるため、タッチ式で開閉する玄関となっている。	○	階段からの転落事故などの防止のため、現在のタッチ式の玄関は止むおえない設備ではないかと思われる
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は主に食事、配茶、排泄介助等の時間に所在確認を行なう。夜間、職員は2ユニット間にある、寮母室にいて巡回、排泄介助時及び、物音がした場合には、安全確認を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所には日中、洗剤、テーブル拭き用ハイターは出しておくが、夜間は流し台下に収納している、包丁は、夜間は寮母室の鍵のかかるロッカーに収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハット報告書については、全員に目を通してもらい、事故防止に生かしている。又、通院が必要となるような大きな事故が発生した場合には、検討委員会を開き原因や対策を検討する体制を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署による救命訓練を今までに2回実施したほか、ブロック研修会での同様の研修に2名が出席した。又、緊急時のマニュアルを作成しており、適切な行動ができるよう生かしている。	○	救命訓練については今後年1回定期的に実施していきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いによる防災訓練を年2回、施設のみで行なう避難訓練を年2回実施している。地域の人々による協力体制はできていない。	○	地域の人々に対する協力要請については今後検討していきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	健康面での不安のある方(狭心症のある方)や、認知症による問題行動(不穏、興奮、暴力など)のある方の家族とは、随時、情報交換に努めている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異変については日誌に記録し、又、朝・夕の申し送りで情報の共有に努めている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方薬の説明書を一括にファイルしたものがあり、確認しやすくしてある。心身の変化が見られた場合には、速やかにかかりつけ医に通院し服薬支援を行なっている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中は、できるだけ体を動かす働きかけ(掃除等の手伝い、体操、散歩など)を行なっている。又、便秘がちの人については、毎日排便チェックを行なう他、医師の指示の元において、下剤の投与や、朝食時にヨーグルトを提供している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分でできない方については、職員が一部介助等支援し行なっている。自分である程度できる方についての確認や支援については不十分な面がある	○	自分でできる方についても声掛け等を必ず行なっていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量等は、毎食把握できるように努め、摂取に偏りのある方についてはケアプランに基づいた管理を行なっている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種については、毎年行なっている。感染症に付いてのマニュアルがあり、発症した場合には、マニュアルに従って対応及び、かかりつけ医への通院、投薬により早期発見早期対応にできるよう体制を整えている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具等は毎食後、衛生管理に努めている。食材については、当日使用する分のみ、併設事業所の厨房より、調達されており、安全な食材を毎日使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階玄関には、1年を通して鉢、プランターに花を植え、外来者にも安堵感を持ってもらえるように配慮している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には、日差しの強弱により、カーテンを開閉し調整している。又、テレビを点けっ放しにせず、時々、BGMを流したりまったく何もかけない時間も作るなど、配慮している。廊下、トイレ等は、明るさに応じて照明を調整し安全に配慮している。食堂は、ソファを置き、利用者がくつろげるように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室があり、利用者同士でくつろいで頂いたり、家族との面会等で利用して頂いている。食堂のソファは、座る場所が大体決まっており、利用者の居場所のひとつになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、家族に対して使い慣れた物品の持込をお願いし、主に家具や家族と取った写真を持ち込んで頂いている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝や日中、適時換気を行なっている。空調については、夏(27度)冬(22度)の温度設定を決めて外気と大きな差がないように配慮している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の共有空間、及び居室は十分なスペースを確保してあると共に、必要と思われる場所には、手すりを設置して、できるだけ、自立した生活ができるように工夫している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ホール、談話室、居室には、カレンダーをかけたリ、ホールには、月予定表、入浴日であるかどうかの掲示板を設置。又、自分の部屋が分からない方については、表札を書けたり、トイレの入り口については、造花を掛け認識しやすくしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階玄関前には、プランターに野菜や、花などを植えている。グループホームでは、ホール横の洗面台に鉢植えの花を置き、利用者に水やりをして頂いている		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常生活が安全に過ごせる様支援しており、特に精神的に不安定が生じた時、職員一人ひとりが根気強く対応し、家族との連絡も小まめにし、明るく安心・安全な生活を指している。